

松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第13回）開催概要

日 時	令和4年2月14日（月） 10:00~12:00
場 所	オンライン開催
出席者	石田秀樹、伊東朱美、大西達也、影山貴大、坂野喜隆、佐藤浩、水戸美津子、渡辺絹代（敬称略）
事務局	松戸市総合政策部政策推進課市政総合研究室

1 「開会」

- 出席者からひとこと
- 事務局の紹介

2 「懇談（松戸市総合戦略等の検証について）」

(1) 松戸市総合戦略等の検証について

- 事務局から説明
 - ・ 最新データで見る松戸市の人口動向(R4.1)（資料1）
 - ・ 総合戦略における数値目標・重要業績評価指標の現状値（資料2）
- 出席者の意見

- ・ 「中小企業経営相談の件数」が大幅に増加しているが、金融機関でも中小企業からの経営相談の件数は非常に増えている。「伴走型支援」ということで、これからも松戸市等と連携して対応していければと思う。
- ・ コロナ禍の影響もあると思うが、人口が減少している。人口自体はこれから全国でも減少していくことが予想され、これからは「どう減らしていくか」を念頭に置いていく必要があると思う。悲観するというよりも、「減っていく中で、どうまちを維持していくのか」という考え方にシフトしても良いのではないかと感じた。
- ・ コロナ禍で観光関連の数値が落ちているデータがある一方で、「21世紀の森と広場の来園者数」が意外に減っていない。21世紀の森と広場は市内の人たちが中心に利用されており、コロナ禍において広さが確保されていて、外遊びができるスペースや息抜きの場となっていると思う。これを資源として見極めていくことが大事だと思う。
- ・ 最近、メタバースやVR産業等がとも成長してきている。コロナ禍で実際に足を運ぶことができなくとも、松戸に関わってもらえるようなものを、VR等を活用しながら生み出していくのも良いのではないかと。松戸市はコンテンツ産業に力を入れており、これを機に、市の周辺だけでな

く、全国各地で松戸と関わる人たちを増やしていくというのは、ビジネスチャンスにも成り得るのかと思う。そういったものと観光分野をつなげて良いかと思う。また、こういった分野にアンテナを高く持っておくと、松戸市は都心からも近く、働く場としてこの分野の人たちを呼び込むことも可能であると思うので、そこを強みとして押さえておいても良いのかと思う。

- ・ 年々「生きがい感を持っている人の割合（70歳以上）」が下がっているのが気になる。これはコロナ禍の前からの傾向であり、孤立化等も要因であると思う。特に高齢になってからの転入者や海外からの転入者が「まちに関わる余白」みたいなものを持ちづらいように思う。市民活動、サークル活動、生涯学習の活動等、意外とそういった草の根的な活動が地域の中で「まちに関わる余白」を醸成していくと思う。総合戦略の中にこういった市民活動等に関係するものはあまりないので、そういったもののデータは追っていただけでもした方が良いのではないかと思う。
- ・ 全体的に、コロナ禍を経て基本目標、KPI を見てみると、相談件数関連のものが上がっている。しかし、本来相談は減った方が良いのではないかと思うところもあり、こういった目標値の設定は難しいと思った。「その数値となった要因と、その数値の定性的・質的な変化」が見えてくると、取り組みの有意性が見えてくると思う。どうしても数字の上下だけであると、コロナ禍のような突飛な社会変化があったときに、数値の推移等がわかりづらくなると思う。数値的な変化によって、地域の人たちにどういった質的な変化があったのかが見えてくるような数値の拾い上げがあると、リアリティのある評価ができるようになってくると思う。こういった KPI 等の質的な調査もあると良いと思う。
- ・ 質的量的で言うと、自治体では人的資源、いわゆるソーシャルキャピタルの要素がかなり大きい。特に松戸市については、様々な分野で人的ネットワークを有する職員が調整し、様々な交流等がなされているということもあり、かなり人的な資源があると思っている。
- ・ 自治体の縦割りのネットワークの部分で、例えば「子どもの環境も含めた松戸の住環境の問題について、背景にどれくらいの部署の関わりがあるか」というようなところに心配がある。そういう意味で、今後担当が「どのように総合調整しながら指標を上げていけるか」ということが課題であるのではないか。
- ・ アウターコロナの問題として、実際ある程度数値目標を変えていく、あるいは、予期せぬ問題が出てしまったときに、新たな目標設定をどこに定めるかということが重要になってくると思う。その際、市全体として政策変容をどのように考えていくかということが重要になってくると思う。その際、ソーシャルキャピタルを活かした産学公民の連携や、国のあげる指標等を活用しながら目標設定をしてもらうことが重要であ

る。ソーシャルキャピタルを活かし、様々な関係を構築しながら政策変容に備えていけばいいのではないか。

- ・ コロナ禍ということもあり、今までにない大きな数値のブレが出てくるので、数値目標や KPI については数値としては捉えながら、その中身をしっかりと見ていくべきであると思う。そしてアフターコロナを見据えながら、どのように目標値を置きなおしていくかということも合わせて考えていけば良いのではないかと思う。
- ・ 人口については、働き方がここ 2 年で大きく変わってきており、松戸市に住みながら、都心への通勤することも、テレワークすることも可能であり、行政として、住環境に新しい働き方を加えた形で、何かできるようなことを盛り込んでいけば、人口流入が期待できるのではないかと思う。働く世帯の流入は、出生率の改善やまちの発展には欠かせないことだと思うし、学生にはテレワークのような、住みながらにしての勉強ができるというものを支援できれば、更なる発展につながるのではないかと感じた。
- ・ 「中小企業経営相談の件数」が 3 倍くらいに増加したのは気になるところ。これはコロナ禍による経営不振などに関する相談が増加したのではないかと想像できる。松戸市については大きな影響を受けたサービス業や飲食業の割合が高く、そういった業種が市を支える主要な産業の一つであると思う。こういった数値に現れているものの中身をいかに支援につなげていくかを捉えて、産業の支援等を考えていくことが良いのではないかと思った。
- ・ このコロナ禍の中でも、しっかり行政的検討がなされていると思う。特に子育てについて、昨年 12 月に日経ウーマンの「共働き子育てしやすい街ランキング」で松戸市が 1 位になったことを考えてみると、子育ての分野の数値目標や KPI の中には横ばいで推移しているものや、「入所保留児童を含めた待機児童数」が解消されていないといったところもあるが、子育て関連の拠点や、子育てサポートの面に関しては着実に目標を達成しており、充実をしてきていると思った。
- ・ 高齢者支援については、確かに「生きがい感を持っている人の割合（70 歳以上）」については低い、「65 歳における平均自立期間」が延びており、そういった面も松戸市の良さとして「共働き子育てしやすい街ランキング」の結果につながったのではないかと思う。
- ・ コロナ禍で共働きしている若いお母さんたちは、保育園が休園になったりする中で仕事を続けなくてはならなかったりしており、メンタル的に厳しいところもある。「女性の悩みや問題に係る講座等の参加者数」については、コロナ禍で減少しているのはわかるが、オンライン形式や SNS を利用した形で、悩みや問題に対処するようなものの充実が図れると良いのではないか。

- ・ 共働き世帯では女性の家事負担が重い等の厳しい現実もあるので、単に講座等を実施させるだけでなく、元気な高齢者を子育てのサポートや相談体制といったところにつなげる等して充実させていくと、更に良くなっていくのではないかと考える。
- ・ 若い世代では、流山市や柏市といった近隣市へ移住希望があるような話を聞く。折角「共働き子育てしやすいまちランキング」で 1 位になったので、これを核にして、都心に近く緑が多くて住みやすいということや、高齢者の健康等も合わせた発信ができると思う。
- ・ 「0～14 歳及び 25～44 歳の転入者数－転出者数」については、平成 28 年以降目標を超えるプラスで推移してきたところ、令和 2 年、3 年と減少し、また令和 3 年はマイナスに転じたものの、基準値は上回っているというところに着目した。令和 2 年、3 年の数値はコロナ禍において都心に近いエリアということで、多少影響があった可能性もあると思われるので、今後は市の取り組みを一層進めることで好転も期待できると思う。
- ・ 今後、子育て世代を呼び込み定着につなげる、あるいは松戸で育った若者に住み続けてもらうには、松戸市には子育て環境が充実しているということアピールする他、歴史・文化・観光等の面で地域に魅力を感じ、愛着を持ってもらうことも大変重要だと考える。特に、歴史、文化、観光等については、アフターコロナということも含め、身近なエリアで様々なニーズに応えられるように、松戸市内だけではなく、近隣市との広域連携で、東葛地域の魅力を内外にアピールしていくということも有益だと考える。
- ・ 「認知症サポーター数」が順調に伸びており、「地域包括支援センターの数」や「避難行動要支援者名簿整備数」も目標に達しているなど、高齢者を支える福祉的な基盤整備は順調に進捗していると思う。一方で、高齢者の社会参加・就労改革としての「シルバー人材センター登録者数」は、令和 2 年度についてはコロナ禍の影響があるかもしれないが、あまり伸びておらず、「生きがい感を持っている人の割合（70 歳以上）」も下がっている。今後の取り組みの一つの方向として、退職後も元気な高齢者等に長年培った経験やスキルを地域活動等に活かしてもらえるように、学習機会を提供したり、活動の場を紹介するといったことを地域の団体等と連携してできれば良いと思う。
- ・ 「女性の就業割合」と「障害者法定雇用率を達成している企業の割合」はともに目標を上回っており、「ワークライフバランスに配慮ある企業の割合」も伸びてきており、男女が共に活躍できる環境づくり、誰もが活躍できる環境づくりが進んでいることが伺える。今後もコロナ禍で進んだテレワークの導入支援を行うこと等によって中小企業等を支えながら、働き方改革を推進することで、多様な人材の活躍が進むのではないかと考える。

- ・ コロナ禍の影響で常磐線の混雑率などの指標が改善しているように見える。これからはテレワークが普及してきている中で、都心に近く、必要に応じ出勤する場合にも便利であるということアピールしてればいいのかと思う。
- ・ 利便性を考えると、松戸市は常磐線沿線で非常に便利である。ただ、あまりメディア等で松戸市を見聞きする機会は少ないように思う。テレビで取り上げられることが良いとは言わないが、緑も多く、便利なところであるので、もう少し松戸市の露出が増えていけば良いと思う。
- ・ バスの交通網が発達しているが、交通渋滞が気になる。例えば「日大歯科病院 行」の路線では渋滞地点が2カ所ほどある。これは右折信号が無いために右折路で渋滞しているのではないかと感じた。また、「古ヶ崎五差路の渋滞が激しい」という声も聞く。是非交通アクセスの利便性を更に高めてもらえると良いと思った。
- ・ 松戸市では子育て関係に非常に力を入れているが、高齢者についても基本目標「高齢者がいつまでも元気に暮らせるまちづくり」の施策があるが、もう少しアピールをしていけば良いと思う。高齢者の方が少しでも長く生きていけるように、協力したいと思っている。

(2) 「その他」

次期「松戸市総合戦略」について

ア 地方創生をめぐる国・県の動向について

イ 次期総合戦略とみなす次期「松戸市総合計画」について

- 事務局から説明
- 出席者からの意見
 - ・ 特になし。

3 「事務局からの報告」

- 事務局から説明
 - ・ 懇談会での意見等は、庁内関係部署にフィードバックする。
 - ・ 懇談会の資料及び懇談概要を松戸市のホームページに掲載する。

4 「閉会」

以上